

2011年度受託研究概要報告

## 「西海パールシーリゾート」の夜間景観デザイン

### 研究メンバー

相良二郎	プロダクトデザイン学科教授
田頭章徳	プロダクトデザイン学科助教
見明暢	プロダクトデザイン学科助教

### 委託者

させばパール・シー株式会社

### 研究概要

西海パールシーリゾートは長崎県佐世保市にある西海国立公園の中心地で、日本でも屈指の多島海景観を有する九十九島の入り口に位置している。ここには、観光遊覧船、水族館、芝生広場、マリーナ、海辺の散策デッキ、レストランなどがあり、佐世保市内はもとより、北部九州一円の日帰り観光圏内から、また大型観光施設である「ハウステンボス」と組み合わせた宿泊を伴う遠方からの観光客で日中は年間を通して賑わっている。しかし、主要な観光施設が営業を終える夕刻以降は閑散とし、レストランなどの飲食店舗の営業成績を低下させている。本研究は、西海パールシーリゾートの夜間景観を再考し、夕方から夜にかけての集客向上と顧客満足度を高める魅力アップのための基本デザインを行う。

### 研究成果

8月、9月、12月、1月と現地調査および打ち合わせを行い、以下の問題点を抽出した。①照明器具の光色がエリアごとにばらばらであり、統一感がない。②光源の一部が白色水銀灯であり、雰囲気を壊している。③散策デッキへの動線が屈曲しており、奥にあるレストランへの動線を閉ざしている。④各店舗が独自に集客のための立て看板やのぼりを設置し、全体の雰囲気を壊している。⑤このリゾート地全体のテーマが明確でない。⑥マリーナに面したゾーンが裏通りと化してしまい、魅力を発揮できていない。⑦水族館前の手作りヨット「希望号」の傷みが激しく、負の遺産と見えている。などである。



以上の問題は夜間景観だけで解決できることではなく、テナント管理や総合政策立案も必要である。夜間景観を作り出す照明計画に関しては、全体を色温度の低い電球色に統一し、5つのゾーンに分けて下の提案を行った。

- I) 駐車場から水族館へ至る動線を商店側へ迂回させ、水族館前にイベント広場を設ける水族館のガラス面を灯光器で照射し、アイキャッチとする。希望号は整備を行って光を当てるか、行き先を決めて処分する。街路は樹木の下方から上に向けたLEDスポットライトを照射する。
- II) 散策デッキへの歩道沿いに低い照明器具を並べ誘導し、途中の塵置き場、空調機器等が視界に入らないようにする。
- III) 道路からのアプローチが暗いのでベンチ沿いにLEDテープライトを設置する。
- IV) テナント海側のバックヤード化を改善し、パーゴラに船用灯具を配する。大きな樹木にLEDランタンを下げアイキャッチとする。マリーナに船用照明器具を配し、ヨットを浮かび上がらせる。
- V) 散策デッキは現状とするが、チューブライトで船型を浮かせさせた2隻の観光船を係留する。(係留場所の移動はポンツーンの管理者が異なるため不採用となった。)

また、敷地全体を通してディテールに統一感がないため、テナントに対するコントロールを高め、統一を図ることが必要であり、バックヤードやゴミ置き場、立て看板やのぼりといった、リゾートを訪れた人の夢を壊す現実を見せないような工夫が求められる。このためには、景観整備やサイン計画、イベント企画、ルール作りなどをテナントを含めてコントロールできるディレクター職の配置が必要となる。

なお、当初の目的である、夜間来場者数増加については、中心市街地からの距離があるため、交通インフラを含めた大規模な施策が必要となる。このため、夜間照明の改修による夜間景観の魅力向上に加え、定期的に来訪している朝の利用者への利便提供が全体としての来場者増加への足掛かりになると考えられ、朝から夜までの時

間を問わないコンテンツの提供が最優先課題と結論づけた。